

お答えを申し上げます。

それは前々から議会の皆さんのほうから市長は社長にふさわしくないと、市長は社長になるべきではないんじゃないかというご意見もあって、それを受けてそういったことで改善をさせてもらったというものであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

そういう要求をしたけども、基本的には、カニ屋裁判で訴訟で負けたからでしょ、負けそうになったからだ。結局、都合が悪くなったら次にかえてくだけじゃないですか。私はもっと責任あって、計画行政としてしっかりと指定管理、移行に対して続けていっていただきたいと思います。

以上で終わります。

議長（倉又 稔君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。〔17番 五十嵐健一郎君登壇〕

17番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎です。

通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

1、糸魚川版DMOの取り組みと産業振興策について伺います。

- (1) 組織体制と広域連携について。
- (2) 外部人材誘致と人材育成及び財源の確保について。
- (3) インバウンド推進事業と糸魚川「らしさ」「ならでは」の追求について。
- (4) アート・スポーツ・文化・歴史・アニメ・ミス等のツーリズム事業への取り組みについて。
- (5) I t o B i z（糸魚川産業振興センター）創設について。
- (6) 糸魚川ブランド戦略の推進について。
- (7) シティプロモーションの推進について。
- (8) 女性市職員によるプロジェクトチームの取り組みと今後について。

2、地域包括医療ケアシステムについて伺います。

- (1) 包括的支援事業について。
- (2) 介護予防・日常生活支援総合事業について。
- (3) 地域医療・地域活性化マイスター養成について。
- (4) 特別養護老人ホーム申込者数とサービス付き高齢者向け住宅等の誘致について。
- (5) 糸魚川版CCRC構想の調査研究について。
- (6) ひすい在宅医療プロジェクトの方向性について。

- (7) 医師・看護師の確保について。
- (8) 高度救急医療設備整備事業について。
- (9) 健康産業の推進について。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の組織体制につきましては、糸魚川市観光協会が中心となり、関係者と連携をとりながら糸魚川版DMOとして取り組みを進めてまいります。

また今後、広域連携の取り組みの強化を進めながら広域連携DMOについて検討してまいります。

2点目につきましては、専門的な知識を持った人材の確保や育成はとても大切なことであり、国などの助成制度を活用しながら外部人材の登用も検討してまいります。

3点目につきましては、国策として、全国の自治体がインバウンド推進に取り組んでいる中では、糸魚川ならではの体験や糸魚川らしさ、生活の文化を感じられるよう官民一体となった取り組みを進めてまいります。

4点目につきましては、さまざまな機会を捉えて稼ぐ観光につなげていくことが肝要であると考え、今後も糸魚川版DMOの取り組みの中で検討を進めてまいります。

5点目につきましては、商工団体を初め関係機関等との連携を図る中で、なりわいネットワークや創業支援ネットワークなど企業支援室が連携拠点としての役割を果たしているところでありまして、糸魚川産業振興センターの創設は考えておりません。

6点目につきましては、今年度から食を中心とした地元産品ブランドプロジェクト事業として糸魚川産品のブランドコンセプトの構築と試行的なプロモーション活動に取り組んでおります。

7点目につきましては、地域間競争が激しくなる中、他の地域にない魅力的な強みを伝えて、選ばれる地域に向けたプロモーション活動の実施について検討してまいります。

8点目につきましては、市内で働く女性や子育て中の女性へのヒアリングで得た課題の解決に向けて、今後、企業と連携した取り組みを進めてまいります。

2番目の1点目につきましては、地域包括支援センターの運営及び在宅医療介護連携推進事業、生活支援体制整備事業などを展開しております。

2点目につきましては、転倒・骨折予防教室など一般介護予防事業を実施しているほか、既存の介護事業所では、訪問型・通所型の介護予防サービスを行っております。

3点目につきましては、市では、ひすい在宅医療プロジェクトとして、医師会など関係機関と連携をし、医療・介護関係者の参加による研修会などを開催し、個々のスキルアップに取り組んでおります。

4点目につきましては、28年2月現在、432人であり、そのうち在宅の要介護4と5の方は、68人となっております。

また、サービス付き高齢者向け住宅につきましては、自宅志向が高いことから、現状において誘

致は難しいと考えております。

5点目につきましては、当市の課題である医療・介護人材の不足や新たな施設整備への投資など課題もありますので、民間事業者の参入の可能性など全国の取り組み事例も含め、調査研究を進めております。

6点目につきましては、医療・介護連携を目的として多職種によりますチームケア体制の整備に取り組んでいるところであり、徐々に連携事業がふえてまいりました。

7点目につきましては、県や糸魚川総合病院と連携し、富山大学等に対する医師派遣の要望活動や修学資金貸与制度等の周知などによりまして、医師や看護師の確保に努めております。

8点目につきましては、国・県の補助制度も活用しながら、高度で緊急性の高い医療に対応できる施設整備を支援し、医師の確保につなげてまいります。

9点目につきましては、企業と連携した健康づくりを実施いたしておりますが、健康産業の創出については、先進的な取り組みを参考にしながら可能性を検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

まずDMOですが、上越三市の議会議員研修会で山田桂一郎さんの講演もございましたし、建設産業常任委員会でも国の方からおいでいただいて、国交省の北陸信越運輸局の土田観光部長も講演もいただきました。それと市の観光協会との懇談もございました。それと地方創生の特別委員会でもかなりのDMO関係で委員からいろいろな意見もございました。それと我々清政クラブで政務調査で京都府へ行ってきまして、海の京都観光戦略ということで、京都府が中心になって7市町合同のDMOということを研修させていただきまして、この辺も含めてこの組織体制、観光協会だけで任せていけないと思うんで、市も含めていろいろな形で組織体制、広域連携も含めて必要だと思うんですが、その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

DMOでは多様な人々が入った組織体というものを求めています。

一方で、ご指摘の行政はどうかということですが、観光庁のほうでは、日本版DMOに対して地方自治体が積極的な参画と連携を求めています。私どももこういった視点に基づきまして積極的に参画する中で、ほかにないDMOをつくっていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

今、課長がお答えになったように行政も入って観光協会含めて、各種団体との連携も含めてやっていくべきで、それと京都では京都府が、府の副知事が副社長になって、企業のトップが、銀行の方ですけど、社長という形もとって、各7市町の職員も入りながらやっていく形、私はやっぱり行政が中心になるかどうかも含めて、一緒になってやっていくべきものだと思うんで、糸魚川市の観光協会だけでは私は無理だと思うんですが、その辺も含めて、先ほどおっしゃった北アルプス日本海連携会議も含めて、いろいろな形はできると思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

議員ご指摘の京都にしても京都府の副知事が入ったり、あるいは地元の銀行等の皆さんが入ったりしているという形をとっておりますけども、今後、DMOを進める中で、できるだけ多くの方から参画をいただいて、より地域の中で情報をきちんと共有しながら、次の発展につなげていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

山田桂一郎さんて、この前、上越三市で研修いただいたんですが、その方はスイスに住んでおられて、日本には、かなり講演活動やられる方、その中でこの前、藻谷浩介さんと一緒になった「観光立国の正体」という、また本を出されて、その中で一貫して観光が総合産業だと。DMOの考え方が総合産業という考えなんですよ。私はそれはやっぱり必要だと思うんです。それから、この糸魚川市総合戦略も含めて総合計画も含めて、全体がDMOに向かっていくべきところに来てるんだと、こう思っておるんですが、その辺、産業部長どうですか、山田桂一郎さんを、すばらしい各団体に対して3日間あくかどうかわかりませんが、講演会・研修ぐらいやったらどうなんですか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

産業部長（齊藤隆一君）

ご提案のいただいておりますお二人の先生の件につきましては、私も書物でありますけれども読ませていただきました。すばらしい発想の持ち主だということは十分承知しております。今のDMOの関連でありますけれども、まさに観光、地域づくりという観点から取り組みが必要だということで、先進事例にももちろん学ばなければならないし、今みたいなすばらしい知見をお持ちの方のお話を直に聞くということも、我々も含めて観光協会も含めて、職員の意識改革には非常に有効だというふうにも思っております。お二人のどちらかを呼べるかどうかも含めてですけれども、そう

いった機会を、今後、当然つくっていかねばならないし、あるいはまた先進地へも足を運ばなければならないというふうに思っております。経費のことももちろんありますけれども、国の制度も活用しながらそういった外部人材の活用という点については、今後の大きい課題として取り組みをしていきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ機会があれば、今、全国的に盛り上がってる中、やっぱり糸魚川もそこでチャンスだと思う、今がチャンス。北陸新幹線も開業されまして、やっぱり糸魚川は注目の的だと思うんです、ヒスイも国の石になったり、いろいろな面で。いろいろな団体がいろいろなところで上げてるんですが、まとまってないんですよ。今が本当にチャンスだと思うんで、こういうすばらしい人をお迎えして、住民も巻き込んで、今、地域づくりプランもやってるんで、住民も巻き込んでどう糸魚川を再生させるか、ここが一番仕組みをつくるチャンスだと思うんですが、その辺を含めて市長どうですか、外部人材誘致も必要でしょうけど、外部人材が人材育成をする、先ほど部長が答えていただいた意識改革の一番目玉だと思うんです。その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに今いろんな、我々住民の皆様方と色々な活動をさせていただいておるんですが、やはり一番必要とするコーディネーター的な役割の人が不足してるのではないかなと思っております。そういう方々がやっぱり必要だということの中においては、外部の人たちが、もし入っていただけるんなら非常に心強い部分がございます。そういうことで、ご指摘のようないい人材がいたら、ぜひとも一緒になって活動していただきたいと私も思っていることでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思います。やっぱり藻谷さんとか山田さんとか、いい人から紹介していただくとか、いろいろなネットワークも必要だと思うんですよ。すばらしい人はすばらしい人と呼んでるので、その辺も含めてやっぱり国の観光庁も含めて一緒になって糸魚川市をどうやっていくか。

それとジオパークの国の関係も議員連絡協議会ですか、いろいろな形を通じてすばらしい人材、外部人材を呼ぶべきだと思います。糸魚川市単独ではなかなか自分の殻からはみ出ないと思うんで、ぜひお願いしたいと思うんですが、その辺も含めて、ブランド化も含めて今のマーケティングでインバウンド関係も今かなり、今、糸魚川の田舎を売る、外国人関係、糸魚川そのもの田舎でいいんですよ。田舎そのものを売るんです。大きくならんでいいと思うんです。糸魚川の田舎を売るとい

うのは本当に今、地道ながら結びついている。そこをやっぱりDMO関係に結びつけながら徐々に、バーンと大きくなっていいと思う。その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今ほどもお答えさせていただきましたが、ゼロからスタートするんだったらそういう形になるんだと思うんですが、我々いろんなことを仕掛けておるわけでありまして、それがなかなかうまく乗っかっていけないところが問題かなと思っておるわけでございますので、その辺をやはりどういうことがいいのか、その辺をやっぱり見ていただくような、またその辺を調査していただいて提言をいただけるようなことをやっていけばいいのではないかな。今までやってきたことはどうなのかということも含めて、そういったこの有識の方々に何かアドバイスを出示してもらったことをやってみたいな、そういう中で今、議員ご指摘のようなところがあれば、そういう形につなげていければいいのではないかなと思っとる次第であります。

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員の一般質問の途中ではありますが、昼食時限のため暫時休憩をいたします。

再開を午後1時といたします。

午前11時58分 休憩

+

午後1時00分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

休憩前に引き続き、五十嵐議員の質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

午前中はありがとうございました。

DMOで一番大切なのは、やっぱり満足度とリピーター、これが一番大切だと。普通の満足だけでなく、大満足を図れるような糸魚川になっていただきたいと思っておりますし、八ヶ岳ツーリズムマネジメント、山梨県の北杜市と長野県の富士見町と原村、これ県をまたがってやってるんですが、その中で食対策強化ワーキングチーム、食対策ですね。それとDMS、DMSでシステムなんです、エリアサポーターという人材育成をやっとるんですね。啓蒙普及員、やっぱりその辺ぐらいまで広げながら人材育成も必要だと思っておりますし、ぜひその辺含めて、次に出てくるプロモーションも含めてどういう考えでやっていけば糸魚川いいと思う、お願いしたいと思

ます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

八ヶ岳は観光圏という形の中で議員ご指摘のように3つの市町村がやってらっしゃいます。今のご指摘のDMSにしましても、基本的には、やはり受け入れる側の皆さんの情報共有、さらに意識改革をした上でどうきちんとてなしをしていくかという取り組みだと思います。八ヶ岳のほうでは、エリアサポーターといった制度もあるそうですけども、いろんな制度を使う中で今の情報共有、さらにきちんとした受け入れができるスキルアップというものに努めていかなければならないというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ糸魚川らしさで、ならではの追求と入るんですが、地域性と個性と創造性、これがやっぱり一番必要だと。お客様が地域を選んだ理由を満たす、その中でお客様も満足する顧客満足度も含めて、ぜひやっていただきたい。商品サービスとしては、「今だけ、ここだけ、あなただけ」それらしいんですね。やっぱりその辺まで追求しながらリピーターをふやしていただきたい、こう思っていますんで、その辺も含めてやっていただきたいと思います。

それで、法人会の糸魚川支部の関係で、渡辺、県の地域振興局長が人口対策で講演されてる中で、外から人を招き、地域の消費を拡大する交流人口が効果が高く、裾野が広いということで、交流人口のキーワード、拡大キーワード、その中で糸魚川タイムスに出ておったんですが、新潟の西の玄関口、長野、群馬等、海のない県の海、広域的な連携、分野を超えた連携が必要だと。やっぱりその辺までひっくり返して糸魚川は、北信越でも真ん中、中心だと思うんで、その辺も含めて、ぜひDMO取り組んでいただきたいと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

渡辺地域振興局長とは、定期的にご相談をする中で、糸魚川のあるべき交流人口の拡大策といったものについては、随時、意見交換をさせていただいております。議員、今お話しの中で北信越の中心という話がありましたけども、先日、北陸運輸局の土田部長が来られたときに、実は糸魚川で会議が多く開かれてるんだという話を聞きますと、新潟だと福井県、石川県、富山県の方は遠いんですけど、糸魚川だとちょうど場所がいいし、さらに駅の近くに会議場があるといったことで、非常に会議の数がふえてきていると、こんな話を聞いております。これも新幹線効果の一つの例だと思

いますが、こういうのをフルに活用しながら皆さんと連携する中で交流人口の拡大に向けた取り組みを進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ新潟県も含めた中で長野県、富山県の方々、北アルプス日本海連携会議もありますが、その辺も含めてぜひやっていただきたいと思います。

それでちょっと飛ぶんですが、I t o B i z、これも何回かやっても設置はしないという答えなんですが、企業支援室できて大分たつんですが、今まで相談件数とか成果、それでなぜそんなにやっぱり成果ですばらしい事業がいっぱいふえないか。その辺で見直し改善とか含めてどういう考えとるのか、今の企業支援室の体制でいいのかどうか、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

五十嵐議員からは、以前からI t o B i zを通して組織の見直しをというご提案をいただいております。企業支援室ができて、かなり時間がたっております。それから、当時、企業支援相談員という専門員もおったわけですが、最近は専門員が不在ということで係員全員が企業訪問するような体制を整えようということで取り組んでできております。近年は、なりわいネットワーク、あるいは創業支援ネットワーク、あるいは地方創生の総合戦略をいかに産官学連携で取り組むかということ、私ども各団体との意見交換会・懇談会を数多く取り組むようにしております。そのような結果、創業支援の補助金の利用も本年度かなり伸びてきたということもございます。いましばらく企業支援室の体制で取り組んでいきたいなと思っております。やはりこの時期、産業創造、それから事業創造というふうなところは、やはり他の地域との競争の時代に入っておりますので、まだまだ企業支援室は強化していく必要はあるという認識には至っておりますけども、いましばらくはこの体制で行きたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

このf B i z、静岡県の富士市、岡崎市、今また九州の天草市、これもやってるんですが、市の委託を受けてやっているのが富士市、岡崎市もそうなんですが、A m a B i zは市単独でやっている、企業支援室と一緒になんですが。私はやっぱり今、富士B i zも見直しを図って、具体的な解決策はこうすればもうかるという戦略で企業に訴えてるんですね。セールスポイントを発見して、最も効果的な形で商品やサービスに転換させることで、それを求めるターゲット層に確実に届けるために工夫して専門員が行ってるんですね。私は市企業支援室だめと言ってるんじゃないです。専門的に考える、二、三年たったら外へ出る、違う課へ行くとか、そこでは専門員にならんと思う



んですわ。そうだったら別に商工会議所、商工会、並びに銀行関係と連携して委託されたところでやる必要があると思います。DMOと絡めて産業振興図っていくことこそ必要だと思うんですが、その辺は斉藤部長いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤隆一君登壇〕

産業部長（斉藤隆一君）

ご承知のようにDMO、今、日本版DMOという形で全国で展開されておりますけれども、これは従来の観光というような一面的な捉え方じゃなくて、今、ご質問の、まさに第1次産業から第3次産業までも含めた、さらに大きい輪をつくっていこうという取り組みでありますので、スタートの段階から大きな輪をつくれるかどうかというところは、今の段階では何とも申し上げられませんが、それらも包括したDMOというのが、糸魚川版DMOの最終形になるんだろうというふうにも思っておりますので、第1次産業、第3次産業までを含めたエリアの中で取り組みを進めていく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

今、DMOとちょっと離れて、産業振興策のほうなんですけど、それに絡めて大きくりはDMO行かんなんですけど、産業振興策が私は最も必要だと思うんです。そこに本気で企業をどうもうけさせるのか、そこまでやっぱり深くいくのが専門員だと思うんです。私は行政ではできないと思うんです。それを人材育成も含めてやっていく必要があると思うんですが、コンサルティングも必要だし、コーディネーター、誰と誰を結びつけて、何と何を結びつけてどう企業を成長させるか、これにかかると思うんですが、その辺やっぱり具体的にやっていかないとだめだと思うんで、その辺、市長いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

確かに議員言われますように企業支援相談員というのは、確かに専門性が高い、誰でもができる職種でないなというふうなことは、認識しております。

最近、商工会議所、商工会が経営発達支援計画というものが認定されまして、国の補助制度を受ける中で会員と商工会議所なり商工会が伴走型で会員のための経営相談、それから発達相談というものに取り組んでいただいております。

それから、先ほどの答弁でも申し上げましたけども、創業支援ネットワークを利用して、各ネットに加入していただいている関係団体、関係機関の知識をやはりネットでもって総力を挙げて使おうという体制が今、少しずつですけどもできておりますので、いましばらくはネットを利用して、それぞれの各団体、機関が持つ専門性をみんなでいかに発揮するというのが、今とりあえず進

むべきとこでないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

先ほども言わせてもらったんですが、やっぱり人材、人になると思うんです。先ほどの富士市でやってる小出センター長、これも全国にかなり行って、コーディネートしてるとこなんですけど、その方でかなり人材育成したところで各地に行っとるんですが、そういう方も呼びながら人材育成をしてもらえて相談員、専門員を育てていくのが必要だと思うんです。そこでないと今の銀行さんだとか商工会、商工会議所では、私は物足りないと思う。それは市長も、そこで企業支援室を建てたと思うんですが、その辺やっぱり違うと思うんですよね。本気になってこの企業をどうするかとなれば、違う場所でやる必要があると思うんですが、その辺いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

地域ブランドにも共通することなんですけども、自分の地域がどのように外から認識されているかということを知るのは、なかなか地元の方は容易でないと思われます。そういう意味で、今、議員提案のように内部的に市内でもいろんな地域を持った方のネットもさることながら、外からの人材という視点は、やはり自分の地域がどのように外から認識されているかというのは、なかなか認めづらい、わかりづらいというところについては、外部人材も必要な点もあろうかと思ひますけども、先ほどの答弁でも申し上げましたように、今、創業支援ネットワークによって関係者のネットがかなり強くなってきておりますし、創業の機会も出てきておりますので、いましばらくは今の体制で取り組んでいきたいという考えでいます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

今がチャンスなんです。芽がちょっと出てきとるんですわ。それをやっぱり伸ばしていくチャンスだと思うんです。

そこで、地域ブランド調査2015のハンドブックで、ブランド総合研究所がやってる中で、糸魚川市が魅力度あるか、認知度がどうだとか、情報接触度がどうだとか、観光意欲度、移住意欲度、昨年に比べて落ちとるんですよね。新幹線効果で上ったのに対して、また15年か16年まで下がってる。魅力度は全国で394位、認知度は366位、下がってるんです。その辺含めてブランド化も必要ですし、シティプロモーションも必要だと思うんですが、その辺を含めていかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

確かに議員言われるように、ブランド戦略というのは非常に大切なものでないかなというふうに思ってます。当市のブランド戦略というと、やはりまだトータル的なものというものは確立されていないかなと思ってます。一番大きなブランドとしては、やはり世界ジオパークというものになると思ってます。今回、ヒスイが国石に選定されたこと、それから、ヒスイ峡なりフォッサマグナミュージアム、谷村美術館というそういう観光ブランドも数ありますし、それから、今、商工農林で進めている食のブランド化、そういうものも始まってきてます。それに加えて、やはり当市においては、国指定の多くの文化財というものがありますので、やはりそういったものをトータル的な視点で当市のブランド戦略というものを進めていく必要があると思ってます。その中でやはり次のシティプロモーションという点になると基本的には地域イメージの向上という形になります。地域イメージの向上には、地域の知名度、認知度の向上、それから、地域のブランド価値の向上、そういったものが図られて、次の交流人口の拡大、定住人口の拡大というものにつながるものと考えておりますので、新年度において少しそういったシティプロモーションについて検討を進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

シティプロモーション、新年度からやるようなこと言ってたんですが、やっていただきたいと思えますし、政務調査で福井県の大野市行かせてもらったら、やっぱり越前大野ブランド戦略、これ大野市全体のブランド化なんですよ。丸ごと大野をどう売るか、シティプロモーションともかかわってくる。ブランドのコンセプト、ブランドキャッチコピー、サブコピー含めていろいろな形で出てるんです。糸魚川まだまだ、先ほども魅力度からいけば全国で394位、認知度も366位、まだ低いんですよ。上げるためにもシティプロモーションは必要だし、伊那市では動画も含めてYouTubeですか、そういうのも必要だと思うんです。今、何点が挙げていただきましたけど、それじゃあ足りんと思うんです。「選ばれるまち 射水」富山の射水、選ばれるまちを目指して、選ばれて稼いでもらわんなんです、糸魚川潤わな豊かにならんやんです。そのためにも必要だと思うんですが、まだまだ本気度が足りんと思うんですが、その辺はいかがですか

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

ヒスイが国石に認定され、新幹線が開業してということで、やはりそういう意味では、今が一番そういうチャンスのと時と思ってますので、しっかり取り組んでまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

今、余り本気度が伝わってきてないんですが、ぜひ今がチャンスで何とかだっただけで簡単に言いますけど、今こそチャンスなんですよ、DMOも含めて。どうやっていくかというの何かイメージが足りんやんですけど、丸ごと糸魚川のブランド化も含めていろいろな形で地域イメージのブランドやっていくんでしょうけど、選ばれるまちになっていただきたいんです。その辺、市長いかがですか、意気込みをお聞かせ願いたいんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

少し弱いんじゃないかと、本気でないんじゃないかと言われますが、本気でやっておることは間違いございません。

しかし、いろんな見方、いろんな考え方からしますとまだまだ足りないんじゃないかとお指摘いただいております。それに対してどのように進めていくか、やっぱり同じ力の出し方でもインパクトのある出し方によっては、かけた以上な受けとめ方もいただけるんだらうと思っとるわけでございますので、そういったところをどのようにしていけばいいか、先ほどもお答えさせていただきましたが、やはり我々が今何が足りないんだとかというところが少し、ないんじゃないかな。いつも一生懸命やってるんだけど、なかなかこちらの人に聞いたらまた戻ったり、行ったり来たりしてるようなところもあるではないか、その辺をやはり無駄のないような形で持っていきたいと思っております。

例えば今、地域連携といいましょうか、連携をさせていただきました第一勧業信用組合さんなんかは、非常に今もう向こうではどういうところに行けばいいかという話も具体的にいただいております。そうすると、こちらがどういうもので動けばいいかというところに具体的にになっていくことがあるので、そういったところを組織化することも必要でしょうし、また今ある組織で動けるものもあるわけでございますので、そういった形で効率のいい対応をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

今、市長からあります第一勧業銀行さんとか本当に外の目、よその目、若い目、そういう形が本当に必要だと思うんです。だからDMOも含めて、このブランド化は、観光ブランド推進会議ぐらいの設置を含めて、DMOも全体を回していかなんやんですけど、その辺やっぱり具体的な戦略も含めて、ぜひこの機会にやっていただきたいと思うんですが、最終的には私の考えは、チーム糸魚川だと思うんです。チーム糸魚川も今、機能してないんです。そうでなく、今がチャンスでチーム糸魚川をどうしていけばいいの、何班とかに分けてやるべきだと思うんですが、その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

チーム系魚川として取り組むかどうかは別として、やはりブランド戦略なりシティプロモーションというのを考えたときに官民連携というのは、当然、必要ですし、市民を巻き込んでの事業にしていかなきゃいけないと思っております。その上で先ほど来から話があるとおり、うちから見たブランドと外から見たブランドというのは、おのずと違いがあると思っておりますので、そういう面では外の方の意見を聞く機会、そういったものも持っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ外部人材も含めてやっていただきたい。それとブランド化は認定品も含めていろいろな観点からもやっていただきたいと、こう思っております。

それで、北海道の帯広市、これも建設産業常任委員会で言わせてもらったんですけど、フードバレー十勝、十勝イノベーションプログラム、これは全国から公募してやっとなんですが、その辺も含めて全国から系魚川どうしていけばと、全国公募すればいいんじゃないですかね。いろいろな形でこの辺は創業・起業の好循環を生み出す十勝イノベーションエコシステムの仕組みづくり、やっぱりこのくらいヒスイのアイデアもいただいたように全国的にいろいろな意見が出てくると思うんですが、その辺も含めて全国的に公募したらいいんじゃないかと、こう思ってるんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

日本全国で先進的な取り組みというのは多々あるというふうに思ってます。そういう成功事例も参考にすることで外部人材入れる際には、どういう方に入ってもらえばいいのか、国の人材派遣制度というのもありますので、そういったものも活用する中で進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ人だけでなく、アイデアを、系魚川をどうしたビジネスモデルにするかを全国公募していただきたい、人だけでなくですよ。中学生から大学生、いろいろな意見をいただいておりますが、それだけでなく、来ていただいてやるのではなく、全国からでも集める必要はあるんじゃないかと、そっ

ちのアイデアです。いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

アイデアと申しまして糸魚川市の内容については、糸魚川市が一番、住んでる人たちが一番詳しい部分もございますので、その辺も今進めてる、先ほど前段でもお答えさせていただきましたが、まずは、私はちょっと調査は先だなと思っております。今やっておることとか、いろいろ資源ある中でどういう形で今、課題または問題があるのかというものを先に見詰める中で糸魚川市としてはどういう方向に行けばいいのかという形に持っていく。そのときにやはりどういうインパクトのある出し方をやっていくかということにつながるんだろうと思うわけでございます。今そのままやってしまうと、また表面だけで行くおそれがあったりして、何か本当に中までどうかという部分も考えられますので、私としては、まず今やっておることがどうなのかも含めながら内部検討しながら、内部検討といいましょうか、それは外部で調べてもいろいろなこともやれると思っておりますので、そういったところから入っていければなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

今やってること内部検討はいいんです。次につながるイノベーション、変えていけることを募集するんです。9月議会でも言わせてもらった島根県江津市、若者の移住・起業などを支援するビジネスプランコンテスト、これも全国公募ですけど、今いろいろな先ほども藤田課長言われたみたいに全国的には、やっとなる。やっとなるのを募集する、だめならだめでいいんですよ。どんだけ来たか、どんだけ来るかわかりませんが、それを1つか2つでもええ、それを採用するとかいろいろな形があると思うんで、いいものも出てくると思うんですわ。かなり糸魚川も売れてきてると思うんで、その辺をやっていただきたいと思うっております。

それで次、入らせていただきますが、包括ケアというほうで、富山県の南砺市へ行かせてもらいまして、地域医療、地域活性化マイスター養成講座、これもやっぱり6期やって259名のマイスターを育成してる。私は、これも認知症だとか関連も含めてグループでこういうマイスター制度が必要だと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋丈明君登壇〕

福祉事務所長（水嶋丈明君）

お答えいたします。

今、議員のほうから南砺市の事例を挙げていただきましたが、南砺市におきましては多職種、医療職、それから介護職、それから市民も巻き込んだ形での地域医療、それから地域活性化のための

ノウハウを学ぶと、それからまた人的なネットワークづくりをつくるといったところから、この地域医療、地域活性化マイスターの制度に取り組んでいるというふうにお聞きをいたしております。

糸魚川市といたしましては、現在、ひすい在宅医療プロジェクトというものを実施しているところでございますが、このプロジェクトの委員の方には、医療の方、それから介護職の方からなっております。プロジェクトの中の発言の中で市民の方々に対して自分たちの取り組みのさらなる発信という観点と、市民を巻き込んだ形で在宅医療の検討の必要性といったものについて、声が上がってきているところであり、このプロジェクトの中では、多職種の顔の見える関係ができつつあり、連携ができてきているなというふうに感じているところなんです、プロジェクト自体は行政主体ではなくて、専門職の方が主体でチームケア体制をつくり上げているといったような状況であります。

そんなところから、今後、市民の方々も巻き込んだ南砺市が行っているようなマイスターの取り組みも、このプロジェクトの中で検討をしていきたいというふうを考えております。今は、内部から市民目線ですとか、市民と一緒に在宅療養を考えたいという発想が生まれてきたことを大切にしております。今後また、そのプロジェクトの中で検討させていただきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひそういう観点からも進めていただきたい、こう思いますし、地域包括ケアシステム糸魚川版も含めながらコーディネーター、生活支援体制整備のコーディネーターも配置されると。共同体の設置、認知症総合支援事業、これも取り組まれるということなんで、やっぱり一応そういう形で介護予防も含めて必要だと思んですが、その辺今、特別養護老人ホームの申込者数が432人ですが、その辺も含めればCCRCと絡んでくるんですが、サービス付き高齢者向け住宅、私は糸魚川市で、行政でつくれっちゃんないんです。民間でつくっていただくように企業誘致と一緒にですよ。駅前でもいいし、いろいろな形でそういうのを企業誘致と一緒に考えて募集すると。民間がやらんという場合はやらんで、そのぐらいを募集する必要があると思います。高いのでないんですよ。月10万以下ぐらいで抑えられるような、そういうのも必要だと思んですが、その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋文明君登壇〕

福祉事務所長（水嶋文明君）

お答えいたします。

サービス付き高齢者向け住宅につきましては、先ほど市長の答弁がありましたとおり自宅志向が強いということから、なかなか難しいのではないかと回答をさせていただきましたが、例えば民間の事業者がやる場合に、どの程度の規模のものであれば採算が合うのかといったようなことも

事業者に聞いてみたことがありますして、そういったしましたら大体50人規模でないとなかなかやっぱり難しいんだという話をお聞きをいたしました。そういったことを考え合わせますと、なかなかこの地域の中で、それだけのものを賄うというものは、現段階ではなかなか難しいかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

地元の方に聞いてもなかなか難しい、全国的に、先ほどじゃないですけど、この新幹線駅も含めていろいろな形で駅から通勤というかできるような、介護保険も要らないんで、その辺も含めてやっぱりその辺の企業誘致と同じ感覚で進めていただきたい、こう思っております。

それとCCRC関係で特別委員会で中間報告もさせていただいたんですが、南魚沼、南魚沼をまねせえじゃないんです。糸魚川版として、どう調査研究して糸魚川らしいCCRC構想にさせていただきたいんです。その辺というのはまだまだ調査研究中なんですか。いつになったらできるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今年度になりますけれども、CCRCについて一定の条件のもとで経済効果について、概算ではありますけれども、試算のほうしております。その結果では、施設整備を考慮しないという条件のもとでは、税収や保険料収入、それから市内消費拡大、それから雇用の確保など総合的に判断すれば一定の効果というのはあるというふうに考えております。そういう中では、今後の考え方でありまして、老齢者人口が急増する首都圏での情報収集をする中で、当市に合ったCCRCについて調査研究のほうは進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺も含めて南伊豆町と東京ですか、も含めて、その辺の観点も含めて糸魚川市に負担ならんようないろいろな形があると思うんで、その辺も探っていただきたいと、こう思っております。

それと医師確保の関係で、金曜日ですか高度救急医療関係は、市民厚生常任委員会にお任せして、医師確保の関係でどういう医師が来ていただくのか、その辺も含めてやっぱり私ら市民厚生常任委員会に入れんやんで、その辺答えられる範囲でお願いしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎市民部長。〔市民部長 岩崎良之君登壇〕



市民部長（岩崎良之君）

金曜日の田原議員の一般質問の中でご指摘がありましたように糸魚川市の今、救急医療で一番の課題は、脳神経外科医がいなくてということをごさいます、ことしの2月に市長と新潟県、あと糸魚川総合病院の樋口院長が富山大学に行く中で、その辺について医師の派遣の要請をお願いしてきましたが、脳神経外科医の、教授の話ではやはり大変厳しい状況を聞いてまいりました。

糸魚川総合病院では、引き続きその後も脳神経外科医の確保について、いろいろ働きかけをする中、前向きな動きがあるという中で、市としても応援する中で医師確保に向けて努力していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひうれしい話なんで前向きに本当に専門医も含めてお願いしたいと。医師不足も絡んで医師の偏在って前の私の質問の中で市長もお答えしていただいたんですが、この前、横浜大学の専門医が短時間、月2回ですか来ていただいている。交代制の勤務の導入、全国でいいんですよ、募集すればいいと思うんですわ。そういう形が一番、今、糸魚川には、医療も教育も含めて必要だと思うんです。救急医療、脳神経外科の先生が来ていただけるっっちゃ幸いなんで、そういうのも必要だと思うんですが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

医師不足は、非常に深刻な問題でございまして、地域医療に欠かせない医師・看護師であるわけでございますので、これからも確保に対しては力を注いでいきたいと思っております。そういう中で今、糸魚川総合病院も医師確保で今いろんなところに募集なり、求む情報を出していただいております。雑誌であったり、また機関紙であったりにも載っておることを見ますと、本当にいろんなこと頑張っておられるなと思っておりますし、私もやはり制度を何とか変えていただきたいという中で県市長会、また北信越市長会にも挙げていただいて、全国市長会の中でも言っていきたいし、国のほうにも呼びかけていきたい、県にも呼びかけていきたいと思っております。偏在性のあるようなことであってはならないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺も含めて医師確保、県知事が今、米山知事になったんで、医師なんで、その辺も含めて国からも呼べるような糸魚川にしていきたい。

それとDMOとかいろいろ含めて、やっぱり夢と希望の持てるまちにしていきたい。今がやっぱり総合戦略でガーって上げるんじゃなく、インパクトあるものをしていただけるような形が一番必要だと思うんですが、未来へつなく糸魚川としていただきたいと思います。その辺、市長いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり我々、まちは持続していかなければいけないわけがございますので、全て1つの課題だけではないわけございまして、地域医療についても先ほど申し上げたとおり絶対必要な事柄がございます。特に、高齢化社会が続くわけございまして、そのためにも医師というものは、また地域医療というのは大切な事柄であるわけございまして、その辺をしっかりと受けとめて進めたいと思っております。なかなか今の環境の中では難しいわけですが、最低限は確保していきたいという考え方でしばらくは続けていかなくちゃいけないんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

松本市で行われている地域健康産業、健康産業も結びつけて夢と希望の持てる糸魚川市になっていただくことをお祈りいたしまして、一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（倉又 稔君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。〔16番 新保峰孝君登壇〕

16番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

私は、権現荘の管理運営、個人番号制度、健康づくり、いじめ問題について米田市長のお考えを伺いたいと思います。

1、権現荘の管理運営について。

(1) 権現荘の宿直体制と緊急時対応等について。

市管理施設及び権現荘の宿直について市の考え方はどうか。

権現荘の自衛消防組織はいつつくられたか。

宿泊者数が25,860人で最高となった平成10年度と、小林前支配人着任前年の平成20年度の宿直体制及び自衛消防組織はどうなっていたか。

特別室321号への苦情の件数とその日時はいつか。東館（別館）開業後、いつから騒